

令和3年 市長定例記者会見（当初予算（案）概要）

日 時：令和3年2月22日（月） 午前11時～

場 所：射水市役所会議室401

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、未来創造課長、財政課長、  
財政課

## ○質疑応答の概要

Q 1. 当初予算についての、市長の所感を伺いたい。

A 1. 新型コロナウイルス感染症の影響や3年に一度の固定資産税の見直しなどにより市税収入の減少が見込まれること、また合併市としてこれまで受けてきた様々な特例措置も今年度で終了することから、予算編成方針の段階において一般財源の確保が非常に厳しいことが見込まれていた。総合計画の後期実施計画で令和3年度に計画していた事業を推進しようとする、多額の財源不足が生じる見込みの中で、政策的経費についてはマイナスシーリングを設定するなど、厳しい予算編成方針を立てたうえで、予算要求を受け付けた。予算要求がまとまった段階では、実施しようとする事業に係る金額と実際に見込まれる歳入を比較すると約20億円不足するという状況の中で査定をスタートした。この約20億円について具体的に細かく予算の査定をし、国の3次補正などを活用し、フットボールセンターの整備事業などの当初予算に計上する予定だった事業を令和2年の2月補正に前倒しをするなど、当初予算の負担を軽減し、より有利な財源が活用できる形へ振り替えた。

また、税収についても、昨年の予算編成方針策定の段階では、リーマンショック時を超える税収の減が見込まれるのではないかという危機感を感じていたが、今年に入り、国の試算などの具体的な経済指標を基に試算し直したところ、当初の見込みほどには減らないことがわかり、20億円のマイナスを6億8700万円にまで圧縮できた。この6億8700万円については、合併地域振興基金や公共施設建設等基金などを取り崩して充てた。限られた財源の中、内容も精査し、予定していた事業についてもしっかり進めるべく予算を計上した。

新型コロナウイルス感染症の影響下でも感染防止の徹底を図りながら、経済の回復との両立を図り、ウィズコロナ、アフターコロナの時代の中でも安心して安全に暮らせる新しい日常を作り出すための事業についても「いみず未来のかたち創造予算」として計上することができた。額としては382億8000万円で、射水市の当初予算が400億を切って300億円代になるのは平成30年度以来3年ぶりだが、これはあくまで大型事業が終了したことによる減であって、決して緊縮予算ではなく、取り組むべき事業について厳しい予算の中でも計上することができた。

Q 2. 投資的経費が44億円あまりも減少しているが、新規で大形の箱モノを建設する予定は当面ないのか。

A 2. 斎場の整備、クリーンピア射水基幹設備の改良工事などの大型工事が終了し、また、めどが立ってきたという状況の中、大きな施設の新築の事業で今後予定しているものはない。ただ、老朽化が進んでいる各地の消防の屯所については計画的に改築・改修を進めていく必要があり、コミュニティセンターについては耐震性能に不足のあるものの耐震工事・改築工事が七美と大島のコミュニティセンターの整備をもって完了したので、今後は老朽化したコミュニティセンターの長寿命化が課題となる。具体的な方針を検討した上で、それぞれのコミュニティセンターの長寿命化に取り組んでいきたい。

Q 3. 市長がトップダウンでぜひやりたいと考えた思い入れのある事業があれば伺いたい。

A 3. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図り、新たな日常を実現するべくデジタル化に積極的に取り組むべきだと考えているので、DXの推進を予算の中でも意識した。LINEのアカウント取得については、きめ細やかで迅速な情報の提供・共有を図る環境が整うと考えている。出生祝いクーポンの交付、UIターンを希望する学生が市内企業で就職面接をする際の交通費を応援する事業にもLINEを活用する予定であり、こういった取り組みも予算の中で計上している。技術の向上が目覚ましいスピードで進む中で、便利な技術をどん欲に活用し、また先取りを図ることによって、未来世代から選ばれる射水市のまちづくりの実現につなげていきたい。

Q 4. 来年度も国からの交付金などが交付されるとしたら、経済対策などで足りていないところに充てる予定はあるのか。

A 4. 今年度は国からの交付金を活用しながら、感染拡大防止対策、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた経済の回復、学生・ひとり親など厳しい状況に直面している世帯への支援などを行った。今後、同様の国の交付金の創設や増額により、財源の確保ができた場合は、より一層、今年度の取組みを進めていくことが必要である。特に、キャッシュレス決済・ポイント還元事業早期終了の際に予約のキャンセルなどがあった市内飲食店については、支援したり、射水の美味しい食をクローズアップして盛り上げるような取組みができないか引き続き検討し、実現したい。

Q 5. 緊縮型の予算ではないとのことだが、新しい日常の創出をかなり意識したという部分において積極型とってよいのか。

A 5. 実際に金額が下がっているのでなかなか積極型とは言いにくい部分もあるが、新しい日常を構築するべく特別枠を設け、額は小さいものが多いが優先的に予算配分した。気持ちとしては積極的に未来に向けて、という思いで予算編成した。